

第4回 長野広域連合ごみ処理施設整備計画等専門委員会議事録

[日 時]	令和4年11月30日(水) 13:30~16:00
[会 場]	ながの環境エネルギーセンター 会議室
[出席者]	専門委員 4名
	オブザーバー 1名
	長野広域連合 5名
	八千代エンジニアリング株式会社 5名

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題

事務局から説明後、意見を伺った。

(1) 報告事項

ア 委員会開催スケジュール

【事務局】第5回専門委員会の開催予定時期を令和5年1月としているが、住民説明会の開催時期によっては令和5年2月以降の開催となる可能性もある。

【委員】地元の方は、自地域以外の候補地についても把握しているか。

【事務局】住民説明会で資料を示して説明するのは該当の候補地のみで考えている。

【委員】住民説明会における住民からの意見について報告すること。

イ 施設構想図及び候補地の現況報告（長野市中条日高（入日））

【委員】地すべり地形が散見されるが、現況では危険が多い場所であるか。

【事務局】地形変状がそこまで明瞭ではないため、活動性は低いと考えている。

【委員】下水道放流とした場合の放流箇所は、図面に記されているか。

【事務局】記載していない。下水道放流の可能性のある候補地は下水道放流先を追記する。

【委員】断面図の現況地盤、切土または盛土との関係が分かりづらいため、表記の方法を修正すること。

イ 施設構想図及び候補地の現況報告（長野市中条日高（びわ島））

【委員】候補地の敷地範囲外ではあるが、上段に存在する地すべり地形は問題ないか。

【事務局】候補地の上方が急斜面となるため落石や崩壊のリスクはあるものの、現地調査において、近年崩壊した裸地等は見当たらなかったため、直接的な地すべりの影響はないと考えている。

【委員】処理水は河川放流となるか。また、河川の水利用はどのような状況か。

【事務局】下水道処理区域内であるため、下水道放流の可能性も含めて計画を修正する。

【委員】放流（接続）先までの距離も記載すること。

【委員】残土のマイナス表記が分かりづらいため、不足土と記載すること。また、不足土の確保に関する検討は行っているか。

【事務局】不足土の確保に関する具体的な検討は今後行うが、建設発生土の利用や、近場からの土砂購入を優先したいと考えている。

イ 施設構想図及び候補地の現況報告（長野市中条（専納～大塩））

【委員】候補地は砂防指定地であり、候補地の下流に砂防堰堤が存在するが、最終処分場整備に伴い地すべり箇所を取り除くことで当該砂防堰堤が機能的に不要となるか確認すること。

【委員】道路の新設及び拡幅範囲が大きく、下水道へ接続する配管敷設などの付随工事が必要である旨も明記すること。

イ 施設構想図及び候補地の現況報告（信濃町野尻高沢）

【委員】上流側のダムから放流した場合の河川水位を確認すること。

【委員】洪水対策及び候補地南西側斜面からの土石流対策は検討しているか。

【事務局】概算工事費算出の際に対策費を見込むことを考えている。

【委員】候補地内に存在している建設発生土の盛土範囲を図示すること。

【委員】他と違い被覆型の施設であるため、跡地利用やランニングコスト等の違いを分かりやすく記載すること。

イ 施設構想図及び候補地の現況報告（小川村高府（梶尾））

【委員】下水道放流の可能性はあるか。

【事務局】県道沿いに下水管が敷設されていることは確認している。下水道に接続する場合は高低差からポンプ圧送になることを踏まえて、処理水の放流先を検討する。

イ 施設構想図及び候補地の現況報告（飯綱町地蔵久保）

【委員】下水道放流の可能性があるとのことだが、下水道までの距離はどの程度か。

【事務局】2.5 km程度である。

【委員】巨礫が含まれる可能性があるとのことだが、どの程度の巨礫を想定しているか。

【事務局】既往資料では5～6メートル程度の巨礫が認められる場所があると記載されていたが、分布が広域であるため、対象地に認められるかは不明である。なお、現地調査では巨礫や岩塊の分布は確認されていない。

【委員】山体崩壊による堆積物で、10メートル程度の巨礫も存在するため、施工計画等においては配慮が必要となる。

(2) 協議事項 ア 評価項目・評価方法・評価基準

【委員】委員から意見があった留意事項については、必ずどこかの項目に入れること。

【委員】評価項目の内容について、まとめ方のバランスが取れていないため再考すること。特に、施設整備の容易性は、項目を増やしても良いと考える。

- 【事務局】評価項目を増やす又はまとめるなど、バランスを取れるように再考する。
- 【委員】「生活環境への影響」について、地域のコミュニティ道路や通学路に対して搬入道路が与える影響も踏まえた評価にすることはできないか。また、「沿道への影響」に関して、道路幅員や現在の交通量について留意事項に記載すること。
- 【事務局】入手できるデータにもよるが、根拠資料を作成する中で評価が難しいなどと考えられる場合は、評価項目や評価基準について相談させていただきたい。
- 【委員】「自然の改変度」について、対象地のほとんどが二次林であるため、植生図を用いた評価方法を見直すべきではないか。
- 【事務局】今回は多様性の高い状況の場所がどれだけ含まれているかを確認する意図で、現存するデータを用いて評価を行っているため、現状の評価方法で進めていきたいと考えている。
- 【委員】今の評価方法を引き継ぐことで問題ないが、各候補地の状況を留意事項に記載すること。
- 【委員】河川放流とした場合の影響について、当該河川の特別な利用状況などがあれば留意事項に記載すること。
- 【委員】地下水に留意する必要がある候補地については、その旨を留意事項に記載すること。
- 【オブザーバー】「積雪の状況」について、除雪が必要な距離も含めて評価が必要ではないか。
- 【事務局】積雪については信濃町のみ評価が異なると想定しており、距離を含めた評価をする必要はないと考えているが、参考として、除雪日数と距離を確認する。
- 【事務局】最終的な評価結果のまとめ方については、委員会の中で協議して決めていただきたいと考えている。
- 【委員】第5回委員会の開催前に評価の原案を確認し、意見を反映した上で最終評価に臨むこととする。

4. 連絡事項、その他

5. 閉会

以上